

西脇市消費生活センター

☎22-3111(防災安全課内)

No.145

消費生活相談業務に関する協定の締結

西脇市は新たに加西市と消費生活相談業務に関する協定を締結し、10月から西脇市に在住、在勤、在学の方が加西市の消費生活相談窓口でも相談ができるようになりました。

西脇市消費生活センターは平成23年度から多可町消費生活センターと連携して相談窓口の拡充を図ってきました。今回の加西市との連携により、さらに利用しやすくなりました。相談に来られるときは下記の内容にご注意ください。

- ・相談は予約優先です。予約のない場合はお待ちいただくことがあります。
- ・契約書や関係書類をお持ちの場合は、全て持参してください。
- ・相談者が事業者として契約している場合や個人間の契約などは相談できません。

■問合せ

西脇市消費生活センター（市役所防災安全課内／☎0795-22-3111）

加西市消費生活相談窓口（アスティアかさい地域交流センター内／☎0790-42-8739）

多可町消費生活センター（中区中央公民館生活安全課内／☎0795-32-3322）

おもてなしコラム 18

西脇市では、「日本のへそ西脇地域食材でおもてなし条例」を施行。豊饒の地で生産された地域食材や地場産業などの魅力に認識を深め、またみんなが郷土に誇りと愛着を持って来訪者をもてなすことで、本市のさらなるにぎわいの創出を目指しています。

■問合せ 農林振興課（市役所内線323）



世界に「オリジナルラベル」の清酒はいかがですか

30年目の地酒～オリジナルラベルとともに～

自営の酒販店として西脇のまちおこしのお手伝いがしたいと思いました。そこで、米づくりをしている関係から山田錦でオリジナルの日本酒を造ることを考えました。

当時は山田錦を栽培した経験なし。農家の方に栽培方法を教わり悪戦苦闘しながら、酒米を収穫することができました。当初、山田錦であればどんな質でも良いのだろうと思っていました。しかし日本酒造りに携わる方々の話を聞くと、醸造する者の立場にも立たなければより質の良い山田錦を作れないと考えるようになりました。それから多種多様な栽培方法を試し、ようやく理想の山田錦を栽培することに成功しました。今年で30年目になります。

当店はオリジナル清酒「あなただけのオリジナルラベル」の日本酒を販売しており、杉原和紙に手書きで好きな言葉を入れることが可能です。また西脇市の新しいロゴマークをあしらえた清酒「にほんのへその緒」はいかがでしょう。いろいろなタイプの清酒がございます。お気軽にご相談くださいませ。

ツクダ酒店 佃 信人



▲レントン市長（上段右）を表敬訪問

好きです!! にしわき わたしのふるさと

今、この時を輝いて生きる
—次世代につなぐ、心豊かな人づくり、まちづくり—

教育委員会や学校園の情報をお知らせします。

姉妹都市・アメリカレントン市訪問を終えて

—平成29年度西脇市中学生親善使節団が帰国—

西脇市は、アメリカ合衆国ワシントン州レントン市と姉妹都市提携を結んでいます。毎年、中学生の親善交流を行っており、今年も14名の中学生が8月16日から26日までレントン市を訪問しました。中学生たちはさまざまな体験をし、大きく成長して帰ってきました。

第31回派遣中学生親善使節団

- 団長 藤井 修一（西脇東中学校長）
 随員 高瀬 和紗（西脇市職員）
 遠藤 七瀬（西脇中）
 竹内 颯太（西脇中）
 武部 優佑（西脇東中）
 荒木 胡桃（西脇南中）
 石野 愛莉（西脇南中）
 上田 真優（西脇南中）
 下原 咲彩（西脇南中）
 下村 紗輝（西脇南中）
 早崎 未記（西脇南中）

▼問合せ 学校教育課（市役所内線536）

- 廣田 らら（西脇南中）
 本間帆乃果（西脇南中）
 丸山 皓暉（西脇南中）
 好岡 花（西脇南中）
 坂田 悠河（黒田庄中）

団員の感想

- ・ホームステイで英語の話しかけでなく、何気なく過ごしている日々の大切さ、恥ずかしがらずに挑戦することの大切さを学びました。
- ・10日間のアメリカ滞在はとても楽しく、私の人生の中で大きな思い出となりました。アメリカで学んだコミュニケーション能力を生かしていきたいです。
- ・文化の交流とともに自分の世界観が変わり、考え方も大きく変わりました。
- ・笑顔で過ごせたことに感謝し、10月にはしっかりとおもてなしをしたいと思います。
- ・英語をもっと勉強しようという話せるようになって、またレントンに行ってみようと思います。

心のスケッチ

103

人権教育室コラム

高齢者介護について

近年よく見聞きする「高齢化社会」という言葉が気になりました。調べてみると、日本は高齢化のスピードが世界で一番速いことが分かりました。現在、日本の高齢化率（65歳以上の人口が総人口に占める割合）は27・3%で、約4人に1人が高齢者ということになります。そして高齢者人口は今後も増え続けると予想されており、5年後には高齢化率が約40%になると推計されています。高齢化が進むにつれ、独り暮らしや高齢者夫婦のみの世帯、介護力の弱い少人数世帯がますます増加し、医療・介護ニーズが高まることも予想されます。

先日、高齢者介護に関する人権学習会に参加し、高齢者介護の実情を学びました。講師は西脇市内の介護施設でケアマネージャーとして働かれており、現場で介護を必要とする方と接する中で心掛けていることや認知症の兆候などについて詳しく教えていただきました。

講話の中で一番印象に残ったのは、京都で起こった介護疲れによる殺人事件の話です。病気で父親を亡くした直後、母親の認知症が判明した男性のお話でした。母親の認知症が分かってから10年後、母親は夜中の徘徊を繰り返すようになり、男性は介護に専念するために仕事を休職。その影響で収入がなくなり生活保護を申請するも休職を理由に認められず、やむなく仕事を退職したといっています。退職後は介護サービス費用や生活費に困窮し、ついには無理心中をするまで追い詰められたというお話でした。

この話を聞いたとき胸が締め付けられました。また同時に、誰か一人でも男性の気持ちに寄り添える人がいたらこのような事件は起こらなかつたのではないかと思います。介護を受ける人とその家族全員の権利が大切にされるべきであり、そのために介護サービスがあるのだと改めて学びました。高齢や介護は誰もが通る道です。だからこそ、自分のこととして考えていきたいですね。

（人権教育室）

市長からの手紙

西脇を元気に!!

45



西脇市長 片山 三二

弾道ミサイル落下時に備えてとるべき行動の確認を

9月3日に北朝鮮が強行した6回目となる核実験や度重なる大陸間弾道ミサイルの発射実験は、私たち国民生活の平和と安全を脅かす行為であり、断じて許されるものではありません。このような近隣諸国の緊張を高める挑発行為は直ちに中止するべきです。

西脇市では、弾道ミサイル落下時のとるべき行動について、広報にしわき7月号や市のホームページでお伝えするとともに、回覧によって周知



Jアラートの訓練放送に合わせて小中学校で安全行動を確認

を徹底しているところです。また、先月には国の緊急情報を瞬時に伝達する全国瞬時警報システム「Jアラート」が有事の際に正常に作動するか、試験放送を実施。これに合わせ、市内の全ての小中学校で安全行動について確認しました。弾道ミサイルは発射から10分以内日本へ到達すると言われています。飛来時に落ち着いて適切な安全行動をとれるようにするには、日ごろからの訓練や備えが必要です。自然災害時も含めて、家庭や職場で話し合ってください。

窓の外からは鈴虫の鳴き声が聞こえ、秋の訪れを感じるようになりました。今月は市民体育大会に始まり、秋祭りや文化祭、ハロウィンイベントなど、さまざまな催しが開催されます。文化・スポーツの秋を存分にお楽しみください。

このまちに住んでいることを誇れる「西脇市」をともに創っていきましょう。